



川崎・多摩丘陵の里山を守る会

2006年1号

事務局代表 伊中

熊野森トラスト

tel&fax044-866-7005

川崎市緑の基本計画の

改定について

川崎市内の30%を緑に、という基本計画

は、多くの市民に、みどりの30プランとして知られていました。ところがこの10年間で、緑は減るばかり。川崎市の土地利用の推移を見ると、宅地の急速な伸びに対して、山林原野、田畑、は減少の一途をたどっています。それは、数値で示されるまでもなく、生活実感として感じています。溝の口駅周辺の高層マンションの建設だけでなく、市内のあらゆるところで、またあらゆる斜面緑地で宅地化が進められました。30%はまったく実現性のない夢になりそうです。

そこで、実現可能なプランを策定すべく、川崎市が取り組み始めたのが「緑の基本計画の改訂」作業です。改定の視点には、緑の確保量の見直し、量的確保から質の向上へということが掲げられています。

まさに、見直しは緑の確保を、もっともつと推進しようとする方向ではない改定です。不可能な状況だから、その現実にあわせて基本を変えようと言うことは、さびしいではありませんか。中でも、注目したいのは、量より質、という点です。緑の質とはどのような

ことをさすのでしょうか。緑の質について

それを評価する方法がないと、自然のままにあることが重要な緑について、逆に評価しないということが起こってしまいます。量より質とは、こと緑に関しては当てはまらないのではないのでしょうか。

振り返って緑の基本計画の6つの施策の基本方向を見てみましょう。

- ① ふるさとの風景をとどめる丘と農をまもる
- ② まちに緑の基盤をつくる
- ③ 暮らしの中に息づく水の文化を伝える
- ④ 花と緑でいきいきとしたまちをつくる
- ⑤ 世界に開かれた港の緑をつくる
- ⑥ 緑のランドワークを展開する

この内容は、まったく古くなっているのではない。けれど実行は不可能になっているというのが、改定の理由です。

平成17年に出された「川崎再生フロントエリアプラン」によると実効性を確保することが重要とされています。緑に関しては「環境を守り自然と調和したまちづくり」が基本政策として掲げられました。政策の方向は「緑

豊かな環境をつくりだす」ことであり、その基本施策は

- ・ 多摩丘陵の緑の保全と育成
- ・ 魅力ある公園緑地や水と親しむ空間の整備
- ・ 協働の取組による緑の創出と育成
- ・ 都市農地の多面的な機能の活用

とされています。この基本施策に反対するものではありません。むしろ積極的に推進していきたいと思えます。でも、この中に隠れて見えにくいけれど、緑の減少に歯止めがかからない、開発をとめる対策はない、という考え方があるように思われてなりません。

緑について「まもる」「つくる」という言葉が消えていき、それにかわって出てきたのが「育成」「整備」です。

さて、これから環境審議会で諮問され、市民説明会も開催されるそうですから、この改定をみんなで見守っていきましょう。(伊中)



蟹ヶ谷の神庭緑地で
カントリーヘッジを作る

トトロの森へ行ってきたよ

武蔵野をどう保全するか、市民のトラスト運動によって、大きな成果をあげているのが(財)トトロふるさと財団です。そのトラスト運動によって保全された緑地、「トトロの森」を昨年の11月に訪ねました。

川崎市で多摩丘陵の里山を守る活動をしている私たちも、トラスト基金によって、緑地を保全することを目標に活動しています。ところが、あまりにも都市の中にある緑地は高額であり、たとえお金があっても売ってもらえる状況がありません。

都市の中の緑地保全運動は、かなり難しいということを実感しています。そんな中で、やはり、トラスト運動成功の地を訪ねて、元氣になりたいの思いから、「川崎多摩丘陵の里山を守る会」の会員6人で行ってきました。ここに掲載するのはそのときの感想です。

トトロの森1号地は

場所：埼玉県所沢市上山口雑魚入591

面積：1182.88平方メートル

取得日：1991年8月8日

取得価格：およそ6000万円

狭山丘陵

いきものふれあいの里センター

好天に恵まれた十一月二十七日、先ず訪れたのは西部狭山線下山口駅に程近い、いきものふれあいの里の中心施設であるセンターでした。

館内よりも館外の雑木林の美しさに惹かれ、解説員の方にエリアを案内して戴きました。

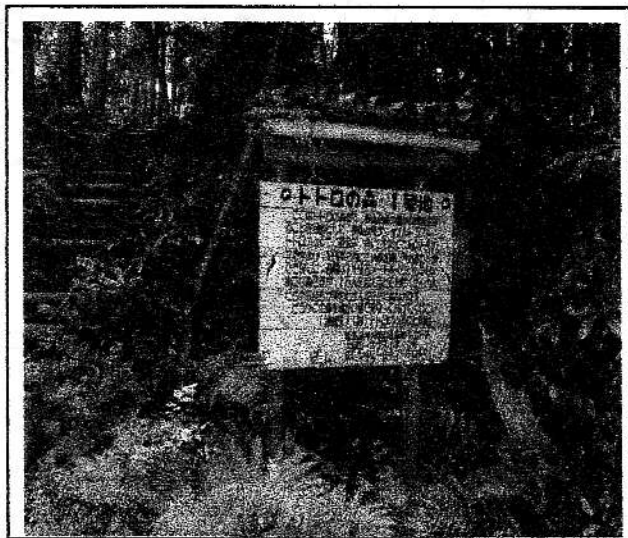
アオハダの木立は、新緑の様に色づいて、見とれるばかりに日差しを浴びて輝いていました。落ち葉の敷物を踏みながら、下草刈りや間伐が施された明るい林を進むとコナラやクヌギの太木、ガマズミの赤い実、茂みにはカラスウリやヒヨドリジョウゴの実が絡まり、二羽のミドリシジミがゆったり羽を広げて、晩秋の散策を一層楽しませてくれました。

身近な熊野森緑地との植生の違いを感じながら、春にはウヅミザクラが美しいと聞き、又訪れたいと思いつつ、私達はトトロの森へと足を進めました。(草井)

◆トトロトラスト

1号地に到着！◆

“ここだあ”と着いた時に思わず声がでてしまったが、意外と小さい小山だったが高い山を制覇した気分。トトロ1号地の手作り看板は心温まり多くの人の気持ちは伝わります。東京近郊でこれだけの土地を約20年前にトラストしたのだからすばらしい。しかも1号地の周囲は既に



保全林になっていて、周囲全体が里山でした。こんな日本の自然の風景を残していくために私たちは力を注

がねばと強く思います。

▼狭山湖、多摩湖を歩く▲

紅葉を楽しみ、トトロのトラスト1号地に足を踏み入れた私たちは、急に空腹になりました。ちょうど紅葉の下によい場所があり、テーブルにお弁当を広げて食べていると、もみじが舞い落ちてきます。神秘的になり、訳もなくつかしくなり、里の秋の空間に私たちは溶け込み、忘れていた唱歌を思い出しながら歌ってみました。

次の目的地、狭山湖(村山貯水池)多摩湖へ急いで歩きました。昔、小学校の遠足で来た時と、湖の回りの風景は変わっていません。トトロの森は東京のみずがめの水源林である狭山湖の横にあることが、この地を訪れて実感できました。狭山湖、多摩湖は多摩川の水を引き入れている人口湖で、それを保全する樹林地は濃い緑、赤、黄色とどこも美しく、自然の恵みにただただ感謝。どこまで歩いても紅葉が続くなか、どんぐりや様々な実を観察しながらの楽しい贅沢なひと時でした。

(竹田 もも)

熊野森への小道

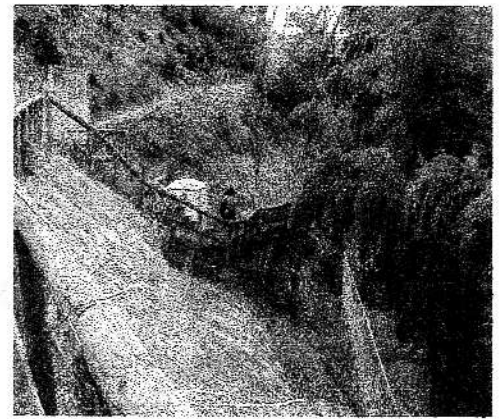
岡田修一郎

セブンフォレストヒル・メイプルコーストのエントランス脇から通ずる熊野森への道が一昨年の台風の影響により一部崩落、通行が出来ない状態が続いておりましたが、復旧工事により通行することが出来るようになりました。

みなさんはこの小道を歩いたことがありますか。アップダウンがあり歩くにはと思う人もいるかもしれませんが。ただ提供公園のために併設された通り道と思う人もいるかもしれません。でもこの小道が熊野森という小さな自然との触れ合いを結び付けているのです。

熊野森は開発後に残された雑木林と思われるかもしれませんが、それだけでなく様々な動植物を育てています。シノキ、ヤマザクラ、時折り出没するたぬき、うぐいすやコジュケイなど野鳥も多く、笹にはカマキリの卵がたたく産みつけられ、エントランスの天井にはクワガタが張り付いていることもあります。

この場所は都会と接しながらも里



山のおもかげを味わうことが出来る貴重な場所になっているのではないのでしょうか。

人は心のどこかで自然との触れ合いを求め、そこから知らずのうちに自然の恩恵を受けていると思います。今私たちの住んでいる周りの緑は急速に減少しています。これらを出来る限り守ることが必要だと思えます。熊野森が鬱蒼としていた元の森に戻ることはありませんが、今ある自然を守り育てていくことは出来るはずで。里山を守る会の活動を通じてこの小さな自然から多くことを学べるよう大切に作りあげていきたいと思えます。春芽吹き、新緑の季節を迎えるにあたりみなさんもこの道をもう一度歩いて見たいかがでしょうか。

どんぐりこ

どんぐりはとても懐かしく、ころころと歌われたように、大人も子供も大好きです。なぜ、こんなにも親しいのでしょうか。

私たち多摩丘陵の里山を守る会の活動の原点と関係があるかもしれませ

ん。
このかわいいどんぐりの木を増やしたいと思えます。昨年の秋の終わり、私たちは熊の森緑地に念願だった苗場をつくり、たくさんのどんぐりを蒔きました。春になったら芽をだし、夏になったらグンと育ち、冬には葉を落とし、次の春になったら、2歳の幼樹となるでしょう。熊の森は小さな小さな緑地ですが、熊の森じるしのどんぐりがこの地域のいろんな場所です。ここに木があったら、木陰になり涼しい風を送ってくれる、小鳥が休みにくる。そんな場所を探してみてください。なければ、植木鉢でもだいいじょうぶです。ご予約はお早めにご連絡ください。
(くぼた)



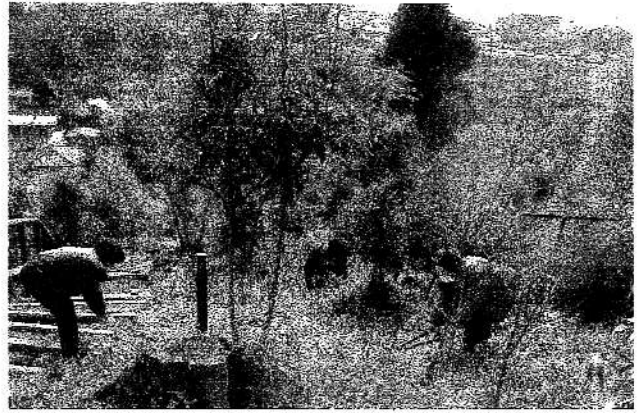
ターザンの木の現在

2006年4月のターザンの木、はこのような森の中にはありません。ちよっと懐かしいので、もう一度この写真を出してみました。一昨年の署名運動によって、この樹は伐られないで、この奥に建設されるマンションの提供公園の中に残ることになったのは、ご記憶のことでしょう。

いまこの木は、工事現場の囲いの中にあります。このターザンの木に通じる道は、竹垣が続いていましたが、それも、竹に似せたプラスチックのような塀に変わりました。

いろいろ変わります。私たちのなかかわらないのは、まだまだ里山活動を続ける気持ちだけでしょうか。

熊野森緑地での草刈作業



熊野森緑地では、草刈や、枝を刈り込む剪定作業を続けています。毎月第3日曜日の定例作業日のほかにも、有志が集まって、この緑地が雑木林の明るい美しさを現すようになることを願って作業をしています。

春まだ浅い、この日も楽しい作業に励みました。そうしていると、子ども達や、散歩に来た人々が、通ります。この斜面の道も、近隣の人たちにとっては便利な通学路、また気持ちのよい散歩コースになっているのでしょうか。作業に気持ちが入ります。



川崎・多摩丘陵の里山を守る会からのお知らせ

○ 花見の会 日時：日時；4月8日(土)午後2時から（雨天9日に順延）

場所：末長熊野森緑地

ヤマザクラ、アンズが満開になるといいですね！

○ 川崎・多摩丘陵の里山を守る会総会

日時：5月13日(土)3：30～5：30 場所：てくのかわさき会議室

なお5：30から懇親会があります。たまにはゆっくりと話し合える機会に会場は溝の口駅近くです。

○ 春の里山を歩く～自然観察会～5月21日(日)10：00～12：00 熊野森緑地にて

山野草と親しみましょう。

講師 自然観察指導員 高橋 英先生

川崎・多摩丘陵の里山を守る会 会員募集について

この会は、緑地保全のための里山ボランティア活動の会です。

毎月第3日曜日に活動しています。

ご関心のある方は、末長久保台公園に、活動日日程にそってお集まりください。

草刈、剪定、どんぐりの苗を育てる、緑の小道づくりなどぜひご参加ください。連絡先 伊中 TEL044-866-7005

里山活動をしよう 活動日

毎月第3日曜日10時から

集合場所：末長久保台公園

・ 4月16日

・ 5月21日・6月18日

・ 7月16日・8月20日

・ 9月17日・10月15日

・ 11月19日・12月17日